

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200033		
法人名	ゆたか福祉会		
事業所名	グループホーム宝南の家		
所在地	愛知県名古屋南区元塩町3丁目1番地の1		
自己評価作成日	令和4年8月2日	評価結果市町村受理日	令和4年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391200033-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	令和4年9月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても役割を持って生き生きと生活できるよう支援している。例えば、毎日の食事作りや食器洗い・洗濯物量など日課として過ごされている。また、認知症の進行や転倒骨折により、長年暮らしている利用者の介護量の増加があるが、今までできてきたことができなくなってきた利用者への支援も、今できることを一緒にやることで、利用者の笑顔や発言を引き出せるよう力を注いでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線通りに程近いマンションや住宅が立ち並ぶところに位置し、デイサービスや居宅介護事業所が併設されている。3階と4階に1ユニットのホームがある。理念の「自立支援、人権尊重、地域とのつながり」を基に、入居者の目標「わたし達の思い」を提示し、入居者と共に毎朝唱和をし、日々ケアの中で振り返りをしながらケアに努めている。温かい地域やボランティア、家族の協力で様々な地域行事の参加や家族の親睦を図る家族会、年2回の日帰り旅行、季節の花見や外食など普段行けない所に皆で参加できるように配慮し、思いやりや馴染みの継続支援に心がけているが、今年もコロナ禍で踏み止まっている。本人や家族、担当者、管理者、計画作成担当者、必要に応じて医師や看護師の意見も添えて担当者会議を行い、ケアプランに反映させてケアの中で実践し、家族からの信頼感と安心感が寄せられている。毎食手作りの食事を提供し、入居者の希望を取り入れた献立や旬となる食材を使った料理、行事食などを楽しめるように心がけている。コロナ状況を確認して、日々の散歩を楽しみながら地域の人々や町の風情を感じ取れるようにしている。4階の広いベランダでお茶をしたり、プランターの花や野菜の水やりなどをして外気に触れる機会を大事にしている。皆が集うリビングでは、家事仕事をしたりテレビや新聞をじっくり楽しんだり、気の合う仲間とカルタ取りをして和気あいあいと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に努めている	今年度より、法人理念について職員と共有できるよう、職員会議の時間を利用して、まずは知ってもらう試みを行った。	事業所理念をリビングに掲示している。「自立支援・人権尊重・地域とのつながり」を分かり易い言葉に置き換え全職員に周知している。また入居者の目標「わたし達の思い」を掲示し、入居者と共に毎朝唱和をしている。ケース会議や職員会議などで定期的に「理念に基づく支援」について話し合いをしながら、職員の行動指針を作成し、確認しながら日々のケアを振り返り、共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ感染対策を行い、地域の消防団と協力して2回避難訓練を行った。町内の行事等での交流は、まだ縮小傾向でできなかった。	町内会に加入し、管理者は町内の役員を担い地域の一人として貢献している。町内の行事は昨年に引き続き縮小されているが、毎日の散歩、家族や友人と散歩に出掛けたり、地域の方と挨拶を交わしたり、お花見散歩にボランティアに付き添って頂くなど親交を続けている。今後、町内の防災訓練や夏祭り、併設のデイサービスでの認知症カフェに入居者と一緒に参加したり中学生との交流などが再開されることを待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座のフォローアップの口座の講師として、地域の認知症サポーターへ認知症への理解を深めてもらえるよう務めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ流行が長引く中で、行事等の取り組みへの意欲の低下等が問題視していることから、計画をしないといけないようになったときに、直ぐ対応できないと意見を頂き、秋の行楽に向けて企画を検討している。	コロナウイルスの感染状況に応じて臨機応変に対応し、書面での開催や感染対策をして対面での開催をしている。家族代表、学区委員長、寿会会長、地域住民代表、民生委員、有識者、いきいき支援センター職員の参加を得ている。事業所の運営状況や活動内容、事故やヒヤリハットなどの報告と地域の活動報告などを議題とし、参加者と活発な意見交換が行われている。意見や提案等はその場で話し合い、サービスの向上に活かしている。会議録は、家族全員に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へオブザーバーとしての参加依頼や、認知症専門部会委員として部会へ参加し、市役所の担当者と関係を築くようにしている。	長引くコロナ禍において、介護保険更新手続きや申請書類などは郵送としている。市の担当者とは日頃から密に連絡を取ったり、FAXやネットなどを利用し情報を得るなど良好な協力関係を継続している。研修はズームなどを利用して施設内で受講し、職員の意識の向上やサービスの向上に繋げている。管理者は南区の認知症専門部会の委員として活動し、講師として依頼されたり、認知症の啓発や地域ネットワークを創るための取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に、身体拘束とはと基本的なことを改めて学習できるよう取り組んでいる。課題としては、無意識にスピーチロックしていることへの気づきがあげられる。	身体拘束廃止委員会を開催し、委員を中心に身体拘束や過剰介護、スピーチロックをしないケアを周知理解を深めている。グレーゾーンを見逃さない取り組みなどテーマを決め不適切なケアについて話し合う中で入居者の気持ちや痛みについて学び、実践に活かす取り組みをしている。居室への移動は、エレベーターや階段など安全に利用できるような見守を重視して、自由な移動や生活空間を提供し束縛感のない生活が送れるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度より、虐待防止委員会を立ち上げ、委員を中心に虐待防止に努めている。また、法人の管理者会議で「やまゆり苑」「愛光園」での事件を取り上げ学ぶ機会があり、施設内でも虐待防止の勉強会の題材として意見交換を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や、成年後見制度についての学習する機会がなかなかもうけられなかった。成年後見制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語等を避け、利用者や家族の理解や納得を確認しながら、一方的な説明にならないように気を付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員へ直接、利用者や家族等から、ご意見をくださることが多く、運営に反映できるよう職員会議で話し合いを行っている。また、玄関に意見箱を設置し、意見があれば記入できるようにしている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。面会室を増設し対面での面会が可能になり、家族からは面会時やケアプランの説明時に意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立っている。グループホームだよりを毎月発行し、入居者の日ごろの様子や行事の写真を掲載して家族に安心を届け、家族から好評を得ている。意見箱を設置して意見を述べやすい環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや職員会議、なにげない会話等で、意見や提案を聞き、運営に反映できるよう努めている。	職員は毎日15分～30分、業務の振り返りや情報交換を行い意見を出し合っている。また、朝の申し送りや毎月の定例会議などで、職員からの提案や要望を聞き、協議をして運営に反映させている。法人が行う自己申告アンケートを実施し、やりがいや健康状態、勤務の希望などの調査をして、ケアや業務改善に役立っている。管理者は年2回の面談の他に、個別に話す機会を増やすよう努めている。ZOOMを活用した研修や非正規職員の研修も予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすさや、やりがい等の自己申告アンケートを毎年行っている。また、職員同士が働きやすい場となるような環境・条件の設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、毎年職員集会を開催したり、今年度は、非正規職員対象の研修を行う予定である。また、ZOOMを活用した研修を職員に促し、現場に取り入れられるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス関係で交流する機会が減っている。他のグループホームを掛け持ちしている職員や、グループホームから転職した職員より、他の施設の良いところを真似し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの申し込みが多いが、本人と面会等で話を伺い、困りごと、不安等をうかがいながら、安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より、現在の困りことや不安なこと、要望等、こまめに連絡を取り、関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の聞き取りや情報収集で、利用者と家族が必要としている支援内容を把握できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や洗濯物たたみ、散歩等、職員と一緒にすることで本人が生き生きと活躍できるような関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナの影響で、面会や行事等を自粛していることもあるが、こまめに連絡をとったり、少しの時間でも一緒に過ごせる方法を模索している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切なお父さんと弟さんのお写真を見えるところに置き、話しかけられるようにしたり、友人と馴染みの場所に散歩にいけるような支援に努めている。	入居者が大切にしてきた人や場所、物事が続けられるよう支援に努めている。コロナ禍で引き続き規制されることも多いが、家族と携帯で話したり、友人と散歩を楽しんでいる。彼岸団子や七草がゆ、鏡餅づくり、年越しそばなどの季節の行事に触れ思い出話に花を咲かせている。また、趣味の生け花や習字などを楽しんだり、家事などを通して今まで培ってきた経験を日常に生かすなど、今できることに力を注いでいる。今年は、コロナ状況を確認し感染予防対策を取りながらお花見弁当を用意してお花見に出掛けたり、秋には小旅行も計画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行で、自発的に会話をして関わる方が少なくなっているが、間に職員が入り、利用者同士の共通の話題等で関わりあったり、一緒にテーブルでレクレーション等を行い支えあえる支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の強い意志で在宅生活へ戻られた方のご家族から連絡があり、現在の状態等の相談を受けた。本人の納得があり、再度申し込みをしていただいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の聞き取りや、暮らしていくなかで、希望や意向の把握に努め、月に1回のケース会議やその都度のミーティングにて検討している。	入居者に寄り添い、日常の暮らしの中で交わされる、さりげない会話や、ふとした態度などから思いや意向を把握するように努めている。職員は気づき等を申し送りノートに記録してケース会議などで検討し情報を共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、些細な変化を見逃すことなく身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新型コロナウイルスの関係で縮小しているが、花が好きな利用者が多く、ベランダで家庭菜園をしたり、料理が好きな利用者様は、毎日台所にとって生き生きと暮らしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の一緒に過ごしている際の少しの変化や、実はできることなどの発見を朝の申し送りや、月1回のケース会議で情報共有をし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議やケース会議で、モニタリングを職員とともに行うように努め、現状に即した介護計画を作成できるようにしている。	入居者の意向や思い、日々の様子、気づきなどを個別記録や支援経過の記録、業務日誌やチェックリストにを記入し、情報を共有しながら支援を行っている。毎月の職員会議やケース会議などでモニタリングを行っている。計画作成担当者は話し合った内容を基に半年ごとにモニタリングしている。担当者会議には入居者や家族も参加し、医師や看護師などの意見や意向等踏まえながら、現状に即した介護計画を毎年作成している。状態が変化した場合等は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に本人の様子を記載するとともに、職員間の情報共有できるよう、業務日誌やチェックリストに気づき等を記入し、介護計画へ反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	転倒により大腿骨頸部骨折となり、リハビリを意欲的に行われる利用者様へ、家族は車で送迎が難しいことから、施設の職員が病院へ通院支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団や地域の町内に参加し、地域で利用者一人ひとりを支えていることを感じる。また、運営推進会議のメンバーの方と散歩中であって挨拶をしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望があれば認知症や整形外科等の専門医への受診を行い、適切な医療を受けられるように努めている。	入居時にかかりつけ医か提携医か希望を聞いているが殆ど提携医に変更している。内科は月2回提携医による往診が受けられる。歯科医が定期的に訪問し、希望者は受診できる。専門科の受診は家族の協力を得ているが、緊急時などは職員で対応し、受診結果は専用ノートや個人記録に記載して情報を共有している。身体状況に変化があった時や緊急時は、訪問看護師と24時間連携を取り、主治医や提携医、協力医療機関による連携体制のもと、速やかに適切な医療を受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違う様子があれば、訪問看護へ相談し、指示をもらい、適切に受診や処置等の医療へつなげられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を作成し提供することや、入院時に病棟看護師へ、ホームでの様子を詳しく伝えるように努めている。また、退院時は、入院中の情報提供書をもらい、往診医や訪問看護と連携し、安心して過ごせるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できるところを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にホームで対応できることを説明するとともに、本人・家族の思いを確認している。状況等によって思いの変化もあるため、担当者会議を利用して行うとともに、医療との連携を図り、チームでの支援に努めている。	重度化や終末期、看取りについては入居時に家族に方針等を説明した上で意向や希望を確認している。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に報告をして医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。また職員が看取りに向けてチームで取り組むための支援やメンタルについての研修を重ね日々のケアの大切さも説明して事業所全体で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は、消防団との学習会ができていたが、新型コロナウイルスの影響でできていない。その都度、確認を行っている。また、応急手当の道具の管理に強化し、いざという時に不足のないように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度より、防災委員会を立ち上げ、職員会議の最後に、短時間でも避難訓練をもうけ、とっさに動けるような実践力づくりに励んでいる。また、地域の消防団や町内との協力体制作りにも努めている。	年2回地元消防団の協力を得て火災や地震、洪水など様々な災害を想定した避難訓練を昼間や夜間の職員体制で実施している。併設の事業所と合同で避難誘導や避難経路の確認、初期消火訓練を行っている。その後の指導や問題点などは職員で話し合い改善に努めている。また、今年度より防災委員会を立ち上げ災害や安全対策など話し合う機会を設けている。福祉避難所の登録は今後の課題としている。備蓄品は水や食料など職員の物資も含め3日分が用意されているが、食料以外の備蓄品のリストが準備されていない。	備蓄食料品や懐中電灯、毛布、簡易トイレ、カセットコンロなど過年度から課題とされている防災用品を把握し、リストを明確に作成して数量や点検日などを記載したうえで、保管場所を確定し、どの職員も緊急時に備え対応できる体制を整えと共に、防災訓練に合わせ再点検をしていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	無意識に使っている言葉かけが、相手の尊厳やプライバシーの確保をしているか、今一度確認を含めて、職員会議にてマナー研修をもうけた。	入居者一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、より良く過ごせるよう努めている。職員は、日々のケアの中で、不適切な言葉かけや態度の違和感が感じ取れるよう具体的な事例を話し合ったり、マナー研修を行ったりして入居者のプライバシーの確保や知識、技術の向上に努めている。また、その場で注意し合える職員の関係性作りにも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化し、本人の思いや希望・自己決定が難しいととらえるのではなく、選択肢を作ることを忘れないような支援ができるよう働きかけている。例えば、おやつ時の飲み物・お菓子など種類を増やした。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「〇〇するう栗時間」という概念は、なかなか廃止できないが、本人のペースに合わせた支援も考えながら、試行錯誤し、希望に合わせた支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理美容をしたり、毎朝鏡の前で髪を整えたり、好きな服を選んでいただけるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に立ったり、リビングで座ったままできることを声をかけたり、ホットプレートを使って料理をしたり、季節の果物を提供したり、食事が楽しみになるような工夫をしている。	業者から食材が届けられ、季節の食材を使って今まで慣れ親しんできた家庭料理を中心に毎食手作りしている。入居者は野菜の検品作業や準備、後片付けなど職員と一緒にいる。おせち料理や、七草がゆ、土用の鰻、お花見弁当で季節を味わったり、誕生日にはその方のリクエストでアユの塩焼きや好みものを提供し食事を楽しむ工夫をしている。夏祭りには提灯を飾ってお好み焼きや恒例のスイカ割をしたり、ノンアルコールのお酒も嗜んだりして楽しんでいる。ベランダで育てた野菜は食卓に彩を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔内の状態や嚥下機能に合わせた食事提供に努め、一日の必要な量を確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを本人の力に合わせて行っている。また、必要があれば、歯科による口腔ケアの支援を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	過半数以上の利用者が排泄支援が必要である。定期的に排泄の声をかけている。また、排便に関しては、なるべくトイレでできるように支援している。	個々の排泄パターンを把握し、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は布パンツやリハビリパンツで過ごし、自力での排泄を目指している。夜間でも、睡眠を妨げることなく尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にして、丁寧な見守りの支援を行っている。また、夜間のみポータブルを利用し安心して排泄ができるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供したり、トイレに座る支援を行ったりし、便秘の予防を行っているが、便秘で悩まれている利用者が多い。今後も予防を検討していく必要がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	固定の日をもうけず、入浴の声をかけ、本人のタイミングに合わせて週に3回以上入れるように支援している。	入浴は週3回を目安にしているが希望があれば毎日でも入浴できる環境を整えている。午前、午後どちらでも入居者の希望に応じて入浴している。お湯は、足し湯をしながらオーバーフローさせ清潔を保っている。乾燥肌や肌の弱い方にも優しいボディソープを利用し肌トラブルの無いよう配慮している。季節を感じるしょうぶ湯や入浴剤などを利用し入浴を楽しんでいる。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に合わせ、必要に応じ横になれるように努め、気温や明るさにも配慮し、安心して気持ちよく眠れる支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師からの申し送りを事務所の目立つ場所に貼り、職員間で情報共有できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ビールを毎日飲んでいた利用者は、ノンアルコールビールを毎日飲んで過したり、誕生日会では、鮎とスイカとメロンのリクエストがあり、提供できるよう努めた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、なかなか外出が難しくなっている。企画がないと動けないため、秋の行楽の行事の企画を検討している。	日常的に散歩や買い物、喫茶店や外食などに出かけられる環境にあるが、コロナの感染状況に応じ臨機応変な対応をしている。お天気の良い日には4階のベランダでお茶をしたり、プランターの花や野菜の水やり、洗濯物や布団干しなどをして外気に触れる機会を大事にしている。また、ドライブなどを取り入れ自宅や故郷を訪ねるなど外出の機会を多く持てるよう努めている。今年こそは秋の行楽に出掛けられるよう準備を始めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元にないと不安な利用者様は、ご自分の手元に持っていただいた。こまめに金額を確認し、管理が難しくなって来た際は、本人とお話し、職員で管理し、不安な時にご本人の手元に所持できるよう工夫した。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	化粧品がなくなったときに家族に電話をするお手伝いをしたり、お孫様からの手紙を居室に飾ったりしている。また、携帯電話の充電をこまめに確認し、家族や大切な人と連絡ができるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる花を共用スペースに飾ったり、共用の空間は誰もが気持ちよく過ごせるような環境作りに努めている。	3階にある居間兼食堂は、ワンフロアで風通しの良い共有スペースとなっている。食堂のテーブルは蜜にならない配置の工夫と壁面には季節に応じた作品をさりげなく飾って居心地よく過ごせる環境を整えている。キッチンからは入居者の動きや気配がよく見渡せ、調理を行いながら入居者を見守っている。入居者はベランダにある四季折々の花を眺めたり、ゲームやお茶会などを楽しんだり、新聞やテレビを見たりソファで寛いだりしてのんびり過ごしている。入居者も一緒に掃除をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ったり、気の合った利用者同士で話したり、また、ベランダにもベンチを置き、思い思いに過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みのあるものを持ってきていただき、本人が心地よく過ごせるような工夫に努めている。	掃除の行き届いた居室には、エアコン、介護用ベットが備え付けられている。入居者は使い慣れた筆筒やテレビ、仏壇など、自宅で使用していたものを持ち込んだり、カーペットを敷いて座卓で寛ぐ生活や歩行状態に合わせた配置、転倒防止などに配慮して安心できる環境づくりをしている。また、愛着のある手作り作品や家族の写真などを飾って自分らしく過ごせる配慮と自立した生活が送れるよう支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう手すりやベッドの位置を工夫している。また、3F4Fという建物の作りのため、歩行不安定になってきた方で、階段の利用が難しい方は、エレベーターを活用したりしている。		